

# 市議会だより



全国ナマハゲの祭典（第29回国民文化祭）

～男鹿から東北に力を！～

◆ 9月定例会審議日程 ◆

9月5日	本会議（議案上程） 公営企業会計決算 （表決）
9日	本会議（一般質問）
10日	本会議（一般質問）
11日	本会議（議案質疑）
12日	予算特別委員会
16日	決算特別委員会
17日	決算特別委員会
18日	常任委員会・分科会
19日	常任委員会・分科会
25日	予算特別委員会 議会運営委員会 本会議 一般・特別会計決算 （表決）

記事内容

8月臨時会・9月定例会から …	P 2～P 3
議会報告会 ……………	P 3
決算特別委員会 ……………	P 4～P 5
一般質問 ……………	P 6～P 8
議案質疑 ……………	P 9
予算特別委員会 ……………	P 9
常任委員会 ……………	P 10～P 11
編集後記・陳情等 ……………	P 12

8月臨時会  
9月定例会

# 石小来春統合準備へ

## 複式学級の解消を図る

平成26年8月臨時会は、8月6日に招集され、1日の会期で開かれました。また、平成26年9月定例会は、9月5日に招集され、25日までの21日間の会期で開かれました。定例会初日には、8月臨時会で継続審査としていた、病院上水道及びガスの各事業会計決算について、全会一致で認定しました。また、平成25年度男鹿市一般会計及び各特別会計決算の認定など、11議案が市長から提案され、審議の結果、すべて全会一致で可決・認定したほか、最終日には、人権擁護委員の推薦について2件を異議なしとするともに、議案5件を可決し閉会しました。

### 9月定例会

#### ●小学校の統合について

現在、野石小学校の2年生と3年生が複式学級となっております。これを解消するため、美里小学校との統合を目指し、保護者や地域の方々への説明会を開催してきたところであり、来年4月に美里小学校と野石小学校を統合する準備を進めてまいります。

また船川南小学校は、現状では、来年度に2年生と3年生及び5年生と6年生の複式学級が発生します。このことから、船川第一小学校との統合を目指し、保護者への説明会を開催してきたところですが、複式学級の解消について十分な理解が得られていない状況です。

市といたしましては、複式学級解消のため統合を目指し

て取り組んでまいります。

#### ●農業の状況について

水稲は、東北農政局秋田地域センターが発表した8月15日現在の県中央の作柄状況は「やや良」となっています。メロンの出荷は8月18日で終了し、販売単価は昨年とほぼ同じく推移したものの、ハウス栽培で小玉傾向にあったことから、全体の販売数量は計画をやや下回っています。

輪菊は、8月までの販売数量は計画どおりとなっているものの、販売単価は7月が安値傾向で推移したことから、計画を下回っています。葉たばこは、収穫盛期の降雨や台風11号の影響で収穫作業が遅れ気味となり、立ち枯れ病の発生が重なったことから、収量の減少と品質の低下が懸念されています。

転作大豆の生育は、順調に

推移しています。

秋田県農業公社が7月1日から1カ月間実施しました農地中間管理事業の第1回借受け希望者の公募が終了しています。本市では34の経営体から農地の借受け希望があり、借受け希望面積の合計は233haとなっております。

#### ●トリアスロン大会の開催について

本市でのトリアスロン大会について、来年度開催に向けて検討してきましたが、9月の第1週は若美地区の体育祭があるため、それ以外との日程で調整しましたが、今年から新たに9月第4週に「秋田25市町村対抗駅伝ふるさとラン」が始まり、9月の第2週は年度によっては3連休の中日になるため、宿泊の確保も難しく、また、ボランティアの確保等様々な課題があり、さらに開催経費が当初の見込みを大きく上回るほか、見込んでいた宿泊等による経済効果が期待できないことなどから、来年度の開催は断念するに至ったとの報告がありました。

#### ●主な事業の進捗情報について

県単局所防災工事については、田谷沢地区が8月29日に

### 可決した主な議案

#### 9月定例会

##### 〔決算認定〕

- 平成25年度男鹿みなと市民病院事業会計決算
- 平成25年度男鹿市上水道及びガス事業会計決算
- 平成25年度男鹿市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算

##### 〔補正予算〕

- 一般会計予算(第2号)  
〔主な内容〕庁舎耐震補強事業費1千350万円、道路補修工事費2千万円、住宅リフォーム助成事業費補助金1千万円などを措置したもので、歳入歳出それぞれ3千90万円を追加するものです。
- 国民健康保険特別会計予算(第2号) 他2件

##### 〔条例〕

- 男鹿市福祉事務所設置条例の一部改正
- 男鹿市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定 他4件

##### 〔その他〕

- 人権擁護委員の推薦  
三浦 光 博(鶴木)  
吉田 諭(福川)
- 議員提出議案  
意見書5件

# 美里小・野 小学校統合、

完成し、上川岩瀬地区は9月30日の完成予定となつています。  
国道・県道関係の主な事業については、国道101号の滝川河川改修事業に伴う杉下橋の架け替え工事は、発注済みであると同つています。  
県道男鹿琴丘線百川バイパスについては、※今年度内完成予定と同つています。また、

同路線の野石橋については、11月末までに完成予定と同つています。  
県道入道崎寒風山線については、飯ノ森地区の寒風山入口交差点からの道路改良工事は、10月末までに完成予定と同つています。  
市道関係については、松木沢潟端線防雪柵設置工事第1工区、第2工区及び船越前野

杉山線道路改良工事は11月28日、女川天台線道路改良工事は9月30日の完成予定となっております。  
滝川河川改修事業の今年度新規継続分工事については、9月中旬の発注を予定しています。  
※県道男鹿琴丘線百川バイパスについては、間もなく完成し12月14日開通予定となっております。

## 議会日程を支所・出張所窓口で

男鹿市議会では、定例会招集告示された翌日から「会期及び日程表」、「一般質問通告書」を支所・出張所窓口へ備え付けますので、議会傍聴にお出での際の参考にしてください。  
なお、ホームページでも公表していますのでご利用ください。

## 議会報告会 9地区で開催



協本地区議会報告会

男鹿市議会では、平成24年に※議会基本条例を制定し、それに基づいて、今年も3班に分かれ、各地区（9地区）で議会報告会を開催いたしました。今年度は、218名の市民の方からご参加をいただきました。報告会では、各班とも最初に平成26年度の市の事業内容と予算の概要について、議会側から報告をし、その後、参加者と地域の現状について、活発な意見交換を行いました。  
主な意見、要望内容について、ご報告します。

### 【議会对する事項】

● 議会は、市行政の追認機関であつてはならない。議会で議論し、より良

い政策提案をしてもらいたい。

● 人口減少は深刻であり、あらゆる方法を考えなければならぬ。議会において活発な議論はされているのか。  
● 議会の政務活動費の使用状況や領収書の添付等は適正に行われているのか。

● 議員定数について、将来的な削減について議論しているのか。  
● 昨年実施し、多額の費用を要した海フェスタについて、議員はどのように評価しているのか。  
【市政に対する事項】

● 戸賀地区に避難誘導灯を早期に整備していただきたい。  
● ふるさと納税の納税額と特産品贈呈にかかる費用はどのくらいか。  
● 各地区の町内会館は防災施設として活用されるため、維持管理費にかかる経費を町内会交付金の算定対象になるよう検討すべきである。

● 多額の整備費用が伴うB&G海洋センタープールの今後の活用計画を教

えてほしい。

● 農地整備等に関する相談窓口の周知と、補助制度等をPRしていくべきでないか。  
● 国道101号の浜間口区間の今後の計画はどうなっているのか。  
● 船越新地区浸水被害の状況とその原因を示してほしい。  
● 生ごみたい肥化実証試験の内容と結果を公表すべきである。  
● 五里合地区避難誘導灯整備事業について、工事着手時期と設置箇所を教えてください。

貴重なお意見ありがとうございます。市民の皆様と市議会議員が自由な情報及び意見を交わす場として、また、議会に関心を持っていただくために、来年度以降、より多くのご参加をお願ひします。

※議会の役割を明らかにするとともに、市民の信託に応え、市民福祉の向上及び市勢の発展に寄与することを目的としています。



男鹿みなと市民病院事業会計  
男鹿市水道及びガス事業会計

# 決算特別委員会

8月臨時会では、平成25年度の病院、水道及びガス事業会計決算について審査するため、議員9人で構成する決算特別委員会を設置、付託し、継続審査としました。その後開催された委員会では、審査の結果、いずれも全会一致で認定しました。決算の概要と質疑から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

## 決算特別委員

- |        |           |            |
|--------|-----------|------------|
| 米三船古小高 | 谷浦橋木仲松野田井 | 勝郎弘博尚積志次郎彦 |
| ○安土    |           |            |
- (◎委員長 ○副委員長)

### 【概要】

病院事業の財政状況は、総収益25億9244万2172円で前年度より6354万9635円の増、総費用26億1035万943円で前年度より5107万6384円の増となったもので、この結果、単年度収支で1790万8771円の純損失となりました。不良債務については、8059万5928円で、経営健全化計画との比較では3759万1072円の減少となりました。

### 経営健全化について

ガス事業の財政状況は、収益的収支において収入では、5億8090万3451円、支出で5億7890万9056円となり、この結果、単年度収支で199万4395円の純利益となりました。

### 質疑

男鹿みなと市民病院の経営健全化計画の達成見通しと患者確保への取り組みについて伺います。

### 答

平成25年度病院事業会計決算では、当年度純損失が1790万9千円となっておりますが、前年度対比では1247万3千円改善されています。また、不良債務は8059万6千円ですが、経営健全化計画との比較では3759万1千円改善されています。同健全化計画では、平成26年度以降の単年度資金収支は毎年4千万円以上のプラスで推移しなければならぬ計画

### 病院経営のあり方について

#### 質疑

決算を踏まえた病院経営のあり方について、医師確保の面を含めて伺います。

### 答

経営健全化計画を間違いないで達成することが大きな目標であり、そのためには医師や看護師の確保が必要です。しかし、当院における医師法に基づく医師標準数は、14・81人となっており、現在、常勤医師のほか、臨床研修医、非常勤医師、大学からの派遣医師を合わせると充足率は112%となっておりますが、常勤医師だけでは充足していない状況です。

常に安定した医師を確保することが、医師の負担軽減につながるため、医師確保については、県に対し引き続き要望しているほか、看護師等を含め、医師等修学資金貸与制度の活用を図りながら、良質な医療を確保していきたいと考えています。

このほか、健康寿命を延ばすため、「健康フェスタ」の開催など、病院の大きな役割として位置付けています。

### 有収率アップについて

#### 質疑

水道の有収率アップにつながった取り組みについて伺います。

#### 答

漏水箇所を発見した際の迅速な対応と通報を受けた後の速やかな調査、そして緊急時でもすぐに対応できる体制を整えていることや、老朽管の更新事業を行っていることが有収率0.5%アップにつながったものと考えています。

### 大潟村への給水について

#### 質疑

大潟村への給水に関する進捗状況と今後の計画について伺います。

#### 答

今年2月、2回目の開催となる、副市長や副村長からなる協議会において、幹事会で協議した、供給方式、供給時期、送水管の費用負担などについて報告したところで、大潟村との行政区域まで新たに送水管を布設するものです。また、供給時期については、平成28年度に認可申請を行い、平成29年度以降になる見込みであり、送水管の費用負担については、今後の協議会において協議してまいります。

## 一般会計及び各特別会計

# 決算特別委員会

9月定例会では、平成25年度一般会計及び各特別会計決算について審査するため、議員9人で構成する決算特別委員会を設置、付託し、審査の結果、いずれも全会一致で認定しました。

決算の概要と質疑から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

## 決算特別委員

孝光誠	田川藤	清圭	吉笹佐
郎三勝子光明	藤田山藤	已次謙富優金利	佐中畠進
○船	◎木		

(◎委員長 ○副委員長)

### 【概要】

平成25年度一般会計の決算状況は、歳入171億8474万4998円、歳出168億6453万8960円となつたもので、歳入歳出差引残高は、3億2020万6038円となりました。このうち継続費及び繰越明許費の財源として9362万1589円を翌年度へ繰り越したため、実質収支は2億2694万4499円の黒字決算となりました。

また、健全化判断比率の4指標は、実質赤字比率、連結実質赤字比率は黒字決算なので生じない状況となっており、実質公債費比率は前年度と比較し01ポイント減の13・7%。将来負担比率は、前年度と比較し69ポイント減の128・1%となっています。

### 海フェスタ事業実績と評価

質疑 海フェスタへの来場者

数等事業実績と事業評価について伺います。

【答】 海フェスタは、本市をはじめ近隣5市町村で共同開催したものであり、来場者は全体で93万3千人、うち男鹿市には32万9千人が訪れました。経済波及効果は全体で51億8500万円、うち男鹿市分は19億5千万円と試算されています。

また、平成25年7月の市内宿泊者数は、前年度対比560人増の1万5589人、なまはげ館入館者は、前年度対比1260人増の1万3277人となっています。事業評価については、宮内庁等から苦情が一切なかったほか、国から感謝の言葉をいただいたことから、成功したものと受け止めています。

### 限界集落の消防団員確保について

質疑 限界集落における消防団員の確保について伺います。

【答】 消防団員の確保が難しい地区については、班の再編を行うなど新たな組織体制に向けた見直しを行う予定としています。

### 漁業振興と6次産業化への取り組みについて

【質疑】 種苗放流による漁業振興と6次産業化への取り組みについて伺います。

【答】 毎年アワビ、ガザミ、クルマエビ、バイ貝の種苗のほか、わかさぎ卵の放流をしており、漁獲高確保のため今後も推進していきます。

また、6次産業化への取り組みについては、初期投資が必要なことや商品開発のノウハウが必要なことが大きなネックとなっています。

このような状況の中、平成24年度に農業と食品販売を営む方が「どぶろく」製造に取り組み、平成25年度は486リットルを販売しています。今後は漬物などの加工品に

取り組む事例が見受けられるため、積極的に支援していきたいと考えています。

### 公共交通生活バス路線の運行状況と今後の方向性

【質疑】 男鹿市公共交通生活バス路線の運行状況と今後の方向性について伺います。

【答】 運行状況については、民間事業者が運行する路線が5路線、市単独路線が6路線のほか、スクールバスによる運行区間があります。

また、今後の方向性については、平成21年度から25年度までを計画期間とする男鹿市公共交通総合連携計画を策定していましたが、本年3月に計画期間を平成26年度から30年度までとする改訂版を作成しました。

改訂の主な内容としては、北浦からの市単独運行バスを予約方式とする。湯本駐在所前の連結点を北浦市民センター前に変更する。スクールバ

スを廃止の方向で進めながら路線バスへの乗車を推進するなどですが、利用者が使い勝手の良い公共交通とするため見直しを図りながら取り組んでいくこととしています。

### 農業政策の検証について

【質疑】 稲作等に係る農業政策の検証について伺います。

【答】 稲作農家は大変厳しい状況にあると認識しており、農業所得を確保していくためには、栽培作物の検討が必要で、米依存から脱却し、代替作物として大豆の規模拡大を図っていく必要があると考えています。また、園芸メカ団地を起爆剤としながら、施設栽培や圃場に適した作物を推進するほか、畑作振興の一環として、遊休地を活用したネギやキャベツの栽培などの取り組みへの支援を考えています。

また、法人化推進のため、法人設立にあたっては、活動費に対して支援しているほか、機械や施設の導入には他の事業より高い補助率を設定しながら助成しています。今後も県と連携しながらさらなる支援をしていきます。



進藤 優子 議員

## ピロリ菌検査の助成について

**質** ピロリ菌の感染により、胃の粘膜が萎縮し、胃癌が発症することが明らかになり、ピロリ菌検査に取り組む自治体が増えています。自分が胃癌のリスクが高いと認識することで、定期的な健診やピロリ菌の除菌治療ができ、萎縮検診と除菌を強化することで、胃癌を撲滅できます。本市でも胃の萎縮検査とピロリ菌検査に助成し、市民の生命を守るべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

**答** ピロリ菌感染者が萎縮性胃炎になると胃癌になる危険性は4倍から10倍高くなります。ピロリ菌感染者の除菌成功率は8〜9割で、除菌による胃癌発症のリスクは低下するものの、除菌の保険適用が胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎に限られ、除菌成功者の胃癌にならないの思い込みや様々な副作用の報告もあるため、国の動向を見極めてまいります。

## こころの体温計について

**質** 若者たちに対して心の健康に関する情報の発信と相談窓口

の周知を図るため、インターネットを活用したメンタルチェックシステム「こころの体温計」が開発され、140以上の自治体で導入されています。市民の心の健康、福祉環境向上、若者の心のケア充実の一環として、本市ホームページにこころの体温計システム導入を検討してみたいかがか。

**答** 心の状態を自己チェックでき、市ホームページや広報誌などに縁がなかった新たな層への啓発手段として有効であり、心の健康づくり推進、青少年や子育て世代の心のケア充実の施策として、こころの体温計システムを来年度導入に向け検討してまいります。

## フォレストベンチ工法について

**質** フォレストベンチ工法は、コンクリートを使わない法面保護工法で、土砂災害を防ぎ、環境を改善する新技術です。国定公園である本市で今後、斜面防護・法面保護工を行う場合、フォレストベンチ工法の採用を提案しますが、市長の考えを伺います。

**答** 土砂災害を克服する防災機能や環境・景観を保全する自然再生機能などに配慮し開発されたものですが、新しい工法であり、適用事例等を踏まえ、施工の可能性について研究してまいります。



安田健次郎 議員

## 市長の政治姿勢について

**質** 農業改革について、農業委員会の見公表や建議を業務から外したり、委員の公選制の廃止を提言しています。また、農地制度は法人にまで農地の利用や所有を拡大します。さらに農協の株式会社化は、共同購入が不可能となり、信用・共済事業を分離すれば全国の農協が成り立たなくなります。何よりも中央会廃止の狙いはTPP反対の司令塔潰しであります。この三つの改革について市長の見解を伺います。

**答** 農業委員会は、全国で投票が行われているのが1割程度であることや高齢農家比率が高いことへの対応です。農地制度については6次産業化などを推進するためです。農協については地域の農協が主役となり、農業の成長産業化に全力投球するためです。

## 農業問題について

**質** 米の直接支払交付金の半減、米価変動補填交付金の廃止、収入減少影響緩和対策の絞り込み、5年後の減反廃止では、地方創生

も少子化対策も成り立たない。総合計画などの見直しをはじめ、全力で農業再生を急ぐ必要があります。予測ですが農家の家計は大変な状況になると思います。特に葉たばこは収穫期の大雨や台風11号による被害が甚大であり、救済を検討すべきだと思いますがいかがか。

**答** 米の販売環境は厳しくなると予測され、稲作主体の営農では所得減少が避けられない状況であり、農家の米依存からの脱却を目指していきます。葉たばこの被害については、今後の経過を注視していきます。

## 福祉について

**質** 医療介護総合法案で要支援1、2の訪問介護と通所介護を保障給付から外し、特老へは介護度3以上とし、年金収入の高い人は2割負担、低所得者でも預貯金があれば居住費や食費の補助をしないなどとなっています。軽度者の介護保険外しで事業が全て市の裁量となりますが、市で十分な対応ができるのか。また、負担増対策や地域支援事業も含めて今後の対応はどうするのか伺います。

**答** 要支援1、2の訪問介護と通所介護が市町村の事業に移管となり、介護予防日常生活支援総合事業として実施され、施設へ入所する場合、認定基準が厳しくなります。今後、事業実施にあたっては他市の状況も見きわめながら進めます。





米谷 勝 議員

学校プール運営の見直しについて

学校プールを来年度から廃止する方向で進んでいるが、児童保育でもプールを遊び場として利用していることを踏まえての廃止なのか伺います。

夏休み中に行った児童保育も含めた利用実態などを考慮して、プールが支障なく使用できる間は引き続き使用する考えです。

史跡脇本城跡整備計画について

本年3月に策定した整備基本計画に基づき、来年度に実施設計を行い、翌28年度からの史跡整備の具体的な進め方について伺います。

来年度から遺跡の整備、歴史学などの有識者や地元の脇本城址懇話会会員などを委員とする史跡脇本城跡調査整備委員会を組織し、10年間の史跡整備の年次計画を定め、文化庁の国庫補助制度を活用し、平成28年度から土地の公有化等、整備を進めてまいります。

総合観光案内所の「道の駅」の登録について

道の駅は県内で30カ所、1市町村で2カ所のところもあり

ますが、国定公園で、国道が通っている男鹿市には1カ所もありません。総合観光案内所の道の駅構想について、県、関係機関との協議状況について伺います。

登録要件を満たすための諸整備費と維持管理費が多額となることから、現時点では道の駅登録は厳しいものと認識しています。

ジオパークについて

今後、どのように西海岸の観光を推進していくのか伺います。

西海岸の景観について、観光コースとしての環境整備を図り、ゴジラ岩や双六地区のグリーンタフなどのジオサイトや海からの絶景を楽しめる遊覧船などを活用し、観光客を誘導してまいります。

秋田県市町村未来づくり協働プログラムについて

市町村が提案したプロジェクト案について、交付総額約50億円を事業規模等を勘案し、市町村に交付することになっていきます。

県に対してどのような説明をし、県の反応はどうなのか伺います。

ジオパーク総合案内看板整備などの受け入れ体制整備と情報発信強化を柱とした観光振興プロジェクト案で協議を進めてきましたが、素案には至っていません。

「その他の質問」

○第12回男鹿日本海花火について



古仲 清尚 議員

季節ハタハタ漁について

男鹿の冬の風物詩でもある季節ハタハタ漁ですが、近年、漁獲量や漁獲高の減少が進んでいます。また、海水温の上昇による水産資源への影響など、今、男鹿の強みである漁業・水産資源の有用性が、危機的状況に陥る可能性が懸念される中で、男鹿市として、行政として、季節ハタハタ漁に対し、地域の活性化に繋がり、地域が潤うような、具体的かつ有効な施策が早急に必要と考えますが、市長の考えを伺います。

秋田県では、平成10年度から平成23年度まで、本市沿岸にハタハタの種苗放流を実施してきました。市としましては、資源回復のため、今後、県に働き掛けて、秋田県漁業協同組合とも協議しながら、種苗放流について検討してまいります。

健康の駅は、保健・健康増進のみならず、医療・介護間等の連携、地産地消を絡めた食文化の発信、コミュニティの構築など、様々な可能性と将来性のある拠点であると捉えることができ、是非、男鹿市でも開設すべきであると考えますが、市長の考えを伺います。

健康の駅推進機構から健康の駅の認証を受けるためには、複数の要件を満たす必要があります。市としましては、男鹿市保健センターを健康の駅への登録を視野に、先進事例を調査研究してまいります。

秋田大学 男鹿なまはげ分校について

北東北国立三大学や秋田県内の国立・私立、短大及び国

立高専等との単位互換制度を活用し、男鹿なまはげ分校において、集中講義等の開設・開催が、男鹿市や地域にとって、非常に有用であると考えますが、市長の考えを伺います。

大学の集中講義、特別講義の開催につきましては、講義会場を男鹿市とした場合、多くの課題が発生するため、困難であるとのことでした。ただ、単位互換制度に関係なく、秋田大学生対象の集中講義を男鹿市内で開催するということに関しましては、この後、大学との協議の中で、可能かどうか検討してまいりたいと思います。

「健康の駅」について

健康の駅は、保健・健康増進のみならず、医療・介護間等の連携、地産地消を絡めた食文化の発信、コミュニティの構築など、様々な可能性と将来性のある拠点であると捉えることができ、是非、男鹿市でも開設すべきであると考えますが、市長の考えを伺います。



佐藤 巳次郎 議員

## 市民アンケートの実施検討 —人口減少対策について—

### 質

①日本創成会議が、全国の半数の自治体が将来消滅する可能性があると発表後、国では「まち・ひと・しごと創生本部」。県では知事を議長とする「人口問題対策連絡会議」や「人口問題対策プロジェクトチーム」。本市でも「人口問題対策検討チーム」を設置しました。私は議会からの施策提言等が必要として特別委員会の設置を提案しており、市民からなる市民委員会やアンケート調査の実施等、市全体での取り組みが必要と考えますが市長の見解を伺います。②子育て支援策として中学生までの医療費無料化、給食費の無料化、出産手当の増額、高校生への通学費支援、保育料軽減等、子育てが安心してできる市政が必要と考えるのがいかがか。③現状の行政の継続であれば若い人の流出が続くことになり。人口減少の歯止めとなる施策が必要であり、来年度予算に具体的施策を

### 答

予算化するよう強く申し入れます。①人口問題は最重要課題であり、様々な観点から総合的に取り組むため、市民意識調査等アンケートの実施を検討していきます。②本市の財政状況から実施は困難であります。③新たな施策も含めて検討しているところであり、来年度予算に向けて取り組んでいきたいと考えています。

## 学校プール継続して使用 —B&Gプール集約化に問題あり—

### 質

学校プールを老朽化により廃止し、B&G海洋センタープールに集約して使用することには全く理解できません。まだ使用できるのになぜわざわざバスに乗りB&Gプールまで行って授業をしなければならぬのか。あまりにも説得力がありません。また、廃止後の学校プールを防火用水に使用するというのは税金の無駄遣いです。教育委員会が必要として造った学校プールを廃止するのは、教育委員会の立場がありません。やめるべきと思いますが市長の考えを伺います。

### 答

夏休みに行った学童保育も含めた利用実態等を考慮して、プールが支障なく使用できる間は使用し、大規模改修が必要な際は近くの学校プールを使用することを念頭に判断していきます。



三浦 一郎 議員

## 農業政策（飼料用米、日本型 直接支払）について

### 質

国は農政を大きく転換、5年後には稲作の減反は廃止になり、主食用米の過剰が心配されます。①輸入依存の畜産飼料は、食糧安全保障の点からも問題で、国内自給力向上に飼料用米の作付けと国内での流通確保が課題になります。男鹿での飼料用向け稲の作付けについて伺います。②農地保全の観点から農家や地域住民が一体となつての活動に支払う「日本型直接支払」が進められています。市内の取り組み状況と、市の推進体制について伺います。

### 答

①26年産飼料用米の子実収穫作付けは19・8haで、品種は秋田63号です。JA秋田みなみが集荷し、全農本部を通じて飼料会社へ販売、配合飼料の原料として利用する計画です。生粉を乳酸発酵させるソフトグレインサイレージの取り組みはありません。黄熟期にワラと一緒に利用するホールクロップサイレージ用稲としてあるきたこまちが06ha作付され牧草用の機械を活用しています。②農地

## 土砂災害に関して

### 質

近年各地で局地的豪雨が多く発生し、この傾向は強まるとみられます。男鹿にはどの位の危険個所があり、対策はどう進めているのか伺います。

### 答

市内に危険箇所は395カ所あり、調査は進行中で、現在、警戒区域指定は151カ所、うち特別警戒区域は51カ所です。指定された地域には「土砂ハザードマップ」を配布し、周知を図っています。避難勧告等の発令基準では「避難判断マニュアル」を見直し、時間雨量などに加えて県の補足情報等も勘案し発令することにしていきます。

## その他の質問

- 男鹿市公契約条例制定について
- 脇本樽沢地区内の渡部土地改良区旧水路について
- 男鹿ナマハゲロックフェスティバルについて
- 日本非核宣言自治体協議会への加入について





住宅問題への取り組みと今後のあり方について

質疑 リフォーム事業の実績と住宅政策の成果は。

答 4年間の延べ利用件数は1642件で補助金合計3億1700万円、工事費総額25億9800万円です。件数の比較では平成24年度437件、平成25年度382件となっています。

これまで転入者を対象とした単独市営住宅建設等、独自施策を展開してきましたが、今後は需要を見ながら整備を進めていきたいと考えています。なお、平成25年度10戸の入居に対し、46件の申し込みがあり、高倍率であったことから新しい住宅に関しては人気があると認識しています。

家庭的保育事業

家庭の保育の事業内容

家庭的保育の事業内容

と今後の可能性は。

答 家庭的保育事業、小規模保育事業、居宅訪問型保育事業、事業所内保育事業の設備と運営に関する基準を定める条例で、保育園・幼稚園等に加えて市町村による認可事業とし、児童福祉法に位置づけ地域型保育給付の対象として多様な施設や事業の中から利用者が選択できる仕組みとなつていきます。基本的に3歳未満の乳幼児を対象としており、待機児童の解消を図ることを第一義的としています。

固定資産税の特例措置に関する条例の一部改正について

質疑 ①新たに旅館業を加えるところがあるが、今このときに条例改正をしなければならぬ理由を伺います。②市外から資本投資を受けている業者にも適用されるか。

答 ①山村振興法の省令の一部が改正され、これに伴って半島地域における半島振興法の省令も改正されています。現在の製造業に加えて旅館業も対象とし、特例措置を受けられる事業所の拡大ということで法律に従った改正です。②市内で製造事業の用に供する設備を新設・増設した場合に固定資産税を不均一課税できる内容となっています。

予算特別委員会

耐震補強工事及び備品購入に係る入札について

質疑 庁舎耐震補強工事の入札が不調に終わったが、入札参加業者は何社であったのか。そして適正な入札が行われたのか。また庁内備品の入札について、入札参加業者からマナー化しているとの声が出ているが、適正な入札が行われているのか。

答 庁舎耐震補強工事入札は、市内に主たる営業所を有する4業者を対象に行われました。入札は適正に行われましたが、開札したところ価格に差が生じ入札不調となりました。内容を調査した結果、積算した工事費に施工費が含まれていなかったことが判明したため、設計を見直し不足した工事費1千300万円を追加補正しました。また、庁内備品の入札につ

今定例会において、全議員で構成する予算特別委員会に付託された、一般会計補正予算等について審査し、いずれも全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。一般会計補正予算の質疑された中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

人口減少への対策

質疑 男鹿市総合計画では平成27年の目標人口を3万580人としていますが、施策結果の分析、検証から、人口減少の原因を把握し、どういった対策をとるのか伺います。

答 人口減少は日本全体の問題で、その要因は「東京一極集中」と「晩婚化・晩産化」の2つと言われています。男鹿市の場合、男性の30歳から39歳までの未婚率が全国平均や秋田県平均を大きく上回っており、これが本市の人口減少が顕著な原因と思つています。男性の未婚率が全国平均に達すれば、今より良くなるという見方で施策を講じていく必要があると思えます。

道の駅類似施設建設の方向性

質疑 市内に観光客を誘導する方法として、道の駅類似施設建設を考えているようだが、建設場所等含めどのような構想を持っているのか。

答 本市を訪れる観光客を男鹿の入口である観光案内所に留めず、市内観光スポットへの更なる誘導を促進するための施策について検討を重ねているところですが、具体的

にどのような施設になるかはまだ固まっています。

# 委員会・分科会の動き

**各常任委員会・分科会は、付託議案と所管の予算案を審査し付託議案等については、原案のとおり可決・採択すべきものと決しました。**  
**質疑のあった主な事項は、次のとおりです。**

## 総務

**質疑** 市有土地貸付収入に關しては、大規模太陽光発電施設としての旧男鹿中学校と旧椿小学校の運動場及び校舎跡地に係る貸付収入とのことだが、これらの契約期間及び年間収入額について伺います。

**答** 契約期間は今年の8月から平成29年度末までの3年間とし、最長20年間貸付可能な契約内容としています。年間貸付収入は、旧男鹿中学校跡地が165万円、旧椿小学校跡地が164万円となっています。

**質疑** 中学校教育用コンピュータ機器リース料について、来年度から5年間で約6千6百万円の債務負担行為の限度額としている。昨今のコンピュータ機器の性能面や経費節減の観点からも買い取りが有

利と思うが、リースとする考え方について伺います。

**答** 機器更新の費用は多額でもあることから、県へ財源等を照会しましたが、市単独による対応とならざるを得ず、備品購入としてはなく5年間のリースとするものです。

**質疑** 大幅な農家所得の減少が確実な中、経済的な打撃に対する救済などは、企画政策課がリードして具体的な施策等を検討すべきでないか。

**答** 様々な施策については、まず担当部署において素案を検討し、その後、企画政策課において取りまとめをして、全体を把握しながら実施の可能性など検討しています。

**報告** 津波ハザードマップの取り扱いについて、8月26日に政府から、「日本海における大規模地震に関する調査検討会」の調査結果が発表されました。これによると、本県沖周辺ではマグニチュード7.4から7.9程度の地震が発生し、本市では最大8.8mの津波が予想されるといふもので、県の想定と異なっている状況です。

津波ハザードマップに使用する浸水域や浸水深の想定は、法律により、国のデータをもとに、県が実施することとなっており、県では、この後専門家に依頼し、浸水想定など詳細分析を行うこととしています。

市としては、県の結果公表後、津波ハザードマップの見直し作業を行うこととなりますが、それまでの対応について、市防災アドバイザーから意見をいただき、庁内災害対策本部委員で協議を行った結果、津波の高さは国の想定が県の想定より低くなっていることから、当面はすでに配布している津波ハザードマップを利用することとしたので、市民の方々へ周知してまいります。

## 教育厚生

**質疑** 家庭的保育事業等の目的について伺います。

**答** 国の定めた子ども・子育て支援新制度における、「量の確保として、待機児童の解消」及び「質の向上として、保育の質を高めること」であり、この家庭的保育事業等というのはいまだ無認可事業として国の支援が全くなかったものですが、待機児童の解

消に有効であるため認可するという目的です。なお、現在男鹿市内に待機児童はおりません。

**質疑** 保育料の未納への対応と保育事業者の関わりについて伺います。

**答** 保育料に関する規定は、児童福祉法で「収納に係る部分については地方税の滞納処分の例による」との規定があり、これにより対応します。また、保育料に関して利用者と市町村が契約を結び、市町村に納めることになることから、保育事業者は保育料について関わりはありません。

**質疑** 学校プールの廃止及びB&Gプール等への集約化について伺います。

**答** 第3次行政改革大綱の策定に際し、この先プールの老朽化が進むことなどから集約をすることを掲げていましたが、夏休み期間中の利用状況を調査した結果、学校プールについてはすぐには集約化せず、当面使用出来るものは使用することにしました。

**質疑** 小中学校において、いじめの実態調査はどのように行われているのか伺います。

**答** いじめの実態調査は、各学校において、月に1回ないしは学期に1回行い、嫌な思いをしたことがあるか、具体的にどのような思いをしたか

など、一人一人に記名による記載をさせ、もしいじめられているような状況であればすぐに対応するという形をとっています。児童・生徒ごとにファイルを作成し、過去からの変化も確認できるように対応しています。今後も、早期発見のため、調査方法について工夫をしていきたいと考えています。

**質疑** 小学校の統合に関する進捗状況について伺います。

**答** 美里小学校と野石小学校の統合は保護者からの「統合を進めるべき」との意見や要望を踏まえ、平成27年4月の統合に向けて準備を進めています。

また、船川第一小学校と船川南小学校の統合については平成27年4月の統合への合意形成は困難な状況となっております。今後とも、引き続き保護者との協議を進めるとともに早期の統合を目指します。

## 産業建設

**質疑** 根本浄水場増補改良事業について、膜ろ過方式の高度浄水処理により、どのような効果が期待できるのか伺います。

**答** 根本地区の地下水は原水でも水質はいいが、最先端の膜ろ過設備でさらに不純物



**交通安全推進議員連盟による  
交通安全啓発活動**

「秋の全国交通安全運動」期間中の9月26日、男鹿市議会交通安全推進議員連盟が交通安全に対する意識高揚と啓発を目的に、市内の保育園、幼稚園を訪問しました。

当日は、議員が3班に分かれて各保育園を訪問し、車道への飛び出しの禁止やシートベルトの大切さなどを訴え、園児たちに交通安全を呼びかけました。

この呼びかけに、園児からお礼の歌が披露され、交通安全を考える良い一日となりました。



若美南保育園訪問

**質疑** 着地型観光人材育成事業について、就業への結びつけを目的に2名の雇用を予定しているが、雇用期間が1年と定められている。もう少し長い期間雇用できないか。

**答** 当該事業は国の基金事



産業建設委員会で高度浄水処理装置の現地視察を行いました

が除去されるため、全国トップクラスの安心・安全な水道水となります。

**報告** 寒風山中腹、男鹿中中間口地内山林で幅100m、延長250mの大規模崩壊がありました。地区会長からの連絡で崩壊の事実を把握したが、いつ崩壊したかは不明です。また、8月15日、真山地区に設置されている雨量計が64・5ミリを記録しているが、

**山地法面崩壊と土砂災害危険箇所について**

**質疑** 協本田谷沢地区と岩倉地区を繋ぐ道路の測量設計業務について、事業に対する地元との協力について伺います。

**答** 地元からは用地取得等に協力したいなど前向きな話が出ています。

**意見** 今定例会予算特別委員会の質疑の中で、本市の平成25年4月現在での土砂災害危険箇所数は395カ所、その約1割にあたる40カ所は対策工事が概成しているとの答弁であったが、今回の崩壊現場はこの395カ所の危険箇所には入っていないことから、他にも市内に危険要因が沢山あることを示していると思われる。このため、災害に強いまちづくりをしていかなければならない。

議会案第6号 消費税10%への引き上げの中止を求める意見書

賛 否 一 覧 表 (平成26年9月定例会)

会派・議員名	市民クラブ						新生 21					政 和 会			日 本 共 産 党		公 明 党	議決結果			
	吉田清孝	高野寛志	米谷勝	木元利博	船木正博	畠山富勝	三浦一郎	土井文彦	古仲清尚	佐藤誠	小松穂積	笹川圭光	三浦桂寿	中田謙三	船木金光	船橋金弘	三浦利通		佐藤巳次郎	安田健次郎	進藤優子
議案番号																					
議会案第6号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	議	○	○	×	可決	

(○：賛成 ×：反対 議：議長)

※三浦利通議長は採決に加わりません。

※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決、認定等されました。



## 請願

● 農業委員会、企業の農地所有、農協改革など、「農業改革」に関する請願  
 《要旨》農政改革にあたっては、農業の担い手の軸を家族経営とし、これを支援する諸制度の充実を図ること、また農業委員会農協の役割の強化等、生産の振興と食料自給率向上に資するものとすることを求める。

● 政府による緊急の過剰米処理を求める請願  
 《要旨》米価の下落が懸念される。米の需給と価格の安定は政府の重要な役割であり、米の過剰基調が明確な今、政府の責任で緊急な過剰米処理を求める。

## 陳情

● 「生涯現役社会の実現」に取り組むシルバー人材センター

議員は公職選挙法により、選挙区内で答礼のための白筆によるものを除き、年賀状などのあいさつ状を出すことはできません。皆さんのご理解をお願いします。

市議会議員一同

## 意見書

● 1への支援の要望  
 軽度外傷性脳損傷の周知、及び労災認定基準の改正などを求める陳情  
 ● 消費税10%への引き上げの中止を求める意見書の提出についての陳情

● 軽度外傷性脳損傷に関わる周知及び労災認定基準の改正などを要請する意見書  
 ● 農業委員会、企業の農地所有、農協改革など、「農業改革」に関する意見書  
 ● 政府による緊急の過剰米処理を求める意見書  
 ● 消費税10%への引き上げの中止を求める意見書  
 ● 地域経済の発展と雇用の安定に関する意見書

5件とも可決されましたので、市議会の意見として、政府関係機関へ送付しました。

### 平成26年12月定例会日程（予定）

月	日	曜日	会議名	主な内容
12	4	木	本会議	市長提出議案上程（提案理由の説明）
	8	月		一般質問
	9	火		一般質問
	10	水		議案質疑、常任委員会付託、予算特別委員会付託
	11	木	予算特別委員会	付託議案の審査・分科会設置
	12	金	常任委員会・分科会	付託議案等の審査・現地調査
	15	月		（総務委員会・教育厚生委員会・産業建設委員会）
	18	木		予算特別委員会
			議会運営委員会	最終日の運営について
			本会議	各委員長報告 （総務・教育厚生・産業建設・予算特別） 質疑、討論、表決

## 議会の豆辞典 ⑬

● 常任委員会  
 常任委員会は、所管する事務に関する調査及び議案、請願等をくわしく審査するために設置されています。合議制の市議会が、広範多岐にわたる、しかも専門化していく地方公共団体の事務を、合理的・能率的に調査し、審議するためには、部門別に委員会を設け、分化的に審議すること  
 が最も能率的であると考えられています。  
 男鹿市議会には、総務、教育厚生、産業建設の3つの常任委員会があり、各議員は少なくともいずれか一つの常任委員となることになっています。委員会で自由、活発な議論により詳細に審査し、その経過及び結果は本会議で報告されます。

## 編集後記

▼ 人類への戒めなのか自然災害の恐ろしさが続きますが、先日の災害で命を落とした方、また被災に遭われた方々には心からご冥福とお見舞いを申し上げます。さて、稲刈りも終わりましたが史上最悪の低米価。なぜ生産費を大幅に下回る8千500円の仮払金なのでしょうか。規模に比例して赤字額が増える。こんなバカな話があるのでしょうか。県では大変でしょうから無利子扱いでお金を貸しますが3年で返してください。仕方なく借りるでしょうがふざけるなと叫びたい。今、農家はこんなどうしたらよいのか迷い悩みながらも生活をしなければならぬので、最大の手立てが必要だと思えます。地方で農業が廃れば8割の職種に影響があると言われていきます。依然として地方の景気が向上しません。これでは人口減少も限界集落も凄スピードで現実のものになってしまします。せめて農家が昔のように男鹿温泉で収穫祝いをしてもいいのではないかと思います。

（安田健次郎）